

東北アジア先史「石」文化への学際的視点

—地質学・考古学からのアプローチ—

先史時代において、「石」は利器や装飾などに用いられる重要な資源であった。地域固有の地質環境は、先史時代の文化の多様性や共通性に強い影響力を持つ。この関係性を具体的に問うためには、環境に関する地質学の知見と、先史文化に対する考古学の知見とを連携させることが望ましい。本ワークショップでは、地質学と考古学の双方で活躍する講演者を招き、東北アジアを舞台とした地質環境と先史文化の関係についてご講演いただく。その上で、事例研究の紹介や石材分析の実演を通して、両分野が持つ「石」に対する認識について相互的な検討を試みる。

事前申込不要・参加自由



- 開会の挨拶 (辻森 樹)
趣旨説明 (阿子島香)
- 講演：
飯塚義之 13:30 - 「先史時代の東アジアから東南アジアにおけるネフライト製石器の分布」
秦 昭繁 14:10 - 「資源環境としての珪質頁岩の特徴—形成環境・分布状況・利用形態—」
- 研究発表：
青木要祐 15:00 - 「韓国・全羅北道における石器石材調査」
熊谷亮介 15:20 - 「韓国・日本における旧石器石材利用戦略と狩猟用石器の形態比較」
- 資料検討会
総合討論

[懇親会を行います。参加を希望される方は問い合わせ先・熊谷までご連絡ください。]

お問合せ / 東北大学大学院文学研究科 熊谷亮介 ryosuke.kumagai.q1@dc.tohoku.ac.jp



主催 東北大学東北アジア研究センター公募型共同研究「東北アジアにおける地質環境と『石』文化の長期的相互作用の研究」東北大学学際科学フロンティア研究所・東北アジア研究センター「東北アジアにおける地質連続性と『石』文化の共通性に関する学際研究ユニット」 共催 東北大学東北アジア研究センター

飯塚義之
1964年生まれ。岡山大学固体地球研究センター博士課程修了。現在は台湾中央研究院地球科学研究所研究技師、金沢大学国際文化資源研究センター客員研究員。専攻は実験地球化学、文化財科学分析。主な著作・編著に「鉱物考古学…低真空走査型電子顕微鏡(LV-SEM)による玉器の分析とその成果」(日本電機工業会誌 vol.44, (2012), 23-38; Y. Izuka, H.C. Hung (2005) Archaeometry of Taiwan nephrite: Sourcing study of nephritic artifacts from the Philippines, Journal of Austronesian Studies 1(1), 35-81, 43p.)

秦 昭繁
1952年生まれ。元山形県立うきたま風土記の丘考古資料館職員。専門は考古学、岩石学。主な著作に「特殊な剥離技術をもつ東日本の石匙」(考古学雑誌 第76巻第4号(1991), 1-29)、「考古学における珪質頁岩の石材環境と産地推定」(山形応用地質 第21号(2001), 1-8)など。